

# 読書指導のあり方を求めて

—種子島高校図書館活動報告—

山下明子

はじめに

鉄砲伝来の地、ロケット打ち上げの島、種子島に赴任して、はや五年目となった。美しい自然、温かい人情、興味深い歴史・文化のある所で居心地がいい。ただ、学校は小規模のため、何かと忙しく、授業もその他の指導も追われるばかりで自ら振り返る暇もなく過ごしてきた。五年の節目にあたり、地に足のついた姿になりたいと願い、ずっとかかわってきた読書指導をまとめてみることにした。

種子島高校は生徒数三九六、各学年三学級という家族的な雰囲気のある学校である。生徒のほとんどは進学希望で、その約三分の一が国公立大に合格するなど進学校として実績を上げ、また他の諸活動でも県内で注目されている学校である。

生徒は小さいころから慣れ親しんでいる者同士なので互いに気心も知れ、競争心もあまりなく、のんびりとしている。従って、いわゆる指示待ちの傾向が強いのだが、素直

で、指導によく従う生徒たちである。

学力の面では個人差が大きく、基礎学力が不十分である。国語からみても漢字力・語彙力の不足が目立ち、これは読書量の不足とも関係があるだろう。一年の時から朝の課外、放課後の添削や追指導も計画的に行って学力の伸長を図り、その効果も大きい。しかし、自ら学び、判断していく力はなかなか養成されない。ここにこそ読書指導のあり方が問われているように思う。だれもが読書は大切だとしながら、高校においてはその指導がなおざりにされていないだろうか。私自身、国語教師としてどのような取り組みをしてきたかはなほだ心もとない。

図書館のことを研究しているわけでもなく、ただ係をしてきたというだけであるが、この離島の生徒たちの読書をよりよいものにならしたいと願ってきた四年余の歩みを報告することによって、読書指導について考えてみたい。

## 一 種子島高校における読書指導上の問題点と課題

生徒の現状から次のような問題点があげられる。

- (1) 読書環境にあまり恵まれていない。
- (2) 過去の読書体験が乏しく、読書習慣の身につけていない生徒がかなりある。

- (3) 現在の読書量が少なく、質にも問題がある。

西之表市の中心部には市立図書館、数件の書店があるが、高校生向けの本や新刊書は豊富とは言えない。周辺部にいくとそれらは全くなく、小・中学校も小さくて図書も非常に少ない。新聞は午後配達され、配達されない地域もある。

小・中学校では工夫して読書指導がなされているが、それでも読書体験は乏しく、本や新聞を読むことの習慣が身につけていない生徒は多い。本校図書館について言うと、蔵書は一万六千冊余あるが、旧制中時代からのものもあって古い本が多い。予算も少ない（H四年度六〇万）ため年間購入冊数も約三百冊と少なく、生徒を引き寄せるには整備が不十分である。生徒は学習や部活で忙しく図書館に足を向ける暇がない状態で、いわゆるホワイトカードが半数ぐらいある。それを解消しようとホームルームや授業で図書館に連れて行っても、借りるには借りるが本当に読むまでには至らない。流行の本は友人間で貸し借りしたりしているが、文学書に親しんだり、何かを調べるために本を探す風景はあまり見られない。読書の量も幅も質も広がりや深

まりに欠ける生徒の現状である。

そこで次のような課題を設定し、方策を立てていくことにした。

- (1) 学習や部活動で、読書時間の取りにくい生徒に対してどのように読書体験を積ませていくか。
- (2) 読書に対する興味の薄い生徒の読書意欲をどう喚起していくか。
- (3) 魅力ある図書館にするにはどうしたらよいか。

## 二 課題解決のための取り組み

課題を少しずつ解決していくために、従来実施していたことはさらに充実させ、また新しい試みも加えて次のような具体策を立て、あれこれ試行錯誤しながら取り組んでいる。

- (1) 読書案内の作成と配布
- (2) 読書強化期間の設定（年二回）、読書記録の提出
- (3) 校内読書感想文コンクールの実施（年三四）、学校文庫集作成
- (4) 全校一斉読書会の実施（秋の読書強化期間に）
- (5) 図書館だよりの発行（毎月）
- (6) 生徒図書委員会の活発化（カウンター当番、書架の整理、統計、広報、学級との懸け橋）
- (7) 購入希望調査の実施（教科年一回、生徒・職員随時）
- (8) 館内の整備についての研究

## 年 間 計 画

4月	新入生オリエンテーション (読書案内配布) 第1回読書感想文コンクール (春休み課題図書)	
5月	読書強化期間 (ゴールデンウィーク期間)	
6月	読書指導係会 (決算・予算・購入計画)	
7.	8月 長期休暇中の開館計画・蔵書点検	
9月	第2回読書感想文コンクール	
10月	読書会準備	
11月	読書強化期間・全校一斉読書会	
12月	蔵書点検	
1月	第3回読書感想文コンクール (冬休み課題図書)	
2月	校内文集『潮騒』編集	
3月	『潮騒』発行、卒業生へのカード返却	
毎月	生徒図書委員会 図書館だより発行	

以上を次のような年間計画で実施するが、ここでは(1)から(4)までの取り組みについて報告したいと思う。

(1) 『種子高・読書案内』について  
 推薦図書リストは多くの学校で作られているが、本校にはなかったため、昭和六十三年から当時の国語主任が中心となって作成準備に入り、平成元年にでき上がって全校生徒に配布した。一三九冊を紹介し、巻末に「私の読書日記」として簡単な読書記録欄を設けた二十四ページの手作りの冊子である。次のような十の領域に分けて紹介した点が工夫したところである。

- |    |                     |
|----|---------------------|
| 10 | 詩歌と芸術の世界を知るために      |
| 9  | 自然の世界を知るために         |
| 8  | 戦争と人間について知るために      |
| 7  | 時代を読み、未来を知るために      |
| 6  | 日本人と日本の社会、文化を考えるために |
| 5  | 人間と人生を考えるために        |
| 4  | 自己啓発のために            |
| 3  | 小説の世界を知るために         |
| 2  | さまざまな青春を知るために       |
| 1  | これまで読んでほしかったもの      |

この読書案内も作成後四年になるので、改訂の必要もあると思つて平成四年七月アンケート調査を試みた。

初めのころに比べると所持状況は大分よくなり、読書の指針としようとする意識はでてきた。効果的に利用されて

1	読書案内の所持状況（3年のみ）					
	1年時まで	(27%)	2年時まで	(23%)	3年時	(50%)
2	読書案内の活用状況					
	時々	(17%)				
	読書強化期間中	(23%)				
	全然活用しない	(60%)				
3	読書記録記入状況					
	読んだら必ず記入	(5%)				
	時々記入	(15%)				
	読書強化期間中	(80%)				
4	4月以降何冊読んだか					
	1年	2.9冊	2年	3.8冊	3年	3.0冊
	0冊	56人（7%）				

いるとは言えないが参考になっている生徒がいる。利用しない生徒は、興味ある本が載っていない、本は自分で書架から探すのがいいとその理由を述べている。お金をかけぬよう学校で印刷製本しているので安っぽく見られる面もある。内容とともに装丁等も検討する時期にあるようだ。

(2) 読書強化期間について

平成元年度から、五月の連休と秋の読書週間に設定している。

「読書案内」の本を読破しようと呼びかけ、期間終了後、「私の読書日記」の欄を記入させて担任に提出させる。担任は検印を押し、図書館に回す。図書委員がどのような本が読まれたか統計をとり、図書館だよりで報告するという手順である。

図書館には「読書案内」掲載の本を並べたコーナーを作り、図書委員が図書館だより等で宣伝し、学級担任にはクラスで趣旨徹底を図ってもらう。この準備が十分でないとなら成果が出ない。例えば先のアンケートで、四月から七月まで一冊も本を読まなかったという五十六名の生徒はこの期間にも読書していないことになる。また「読書日記」に国語教科書所収の作品を一つ書いているのも目立った。これは今年、職員半数の異動があり、司書（学校図書補助員）も新任だったのに、私がまず職員にこの趣旨を十分理解してもらおう手だてを怠ったからである。

私の読書日記用元

書名	読んだ日 読んだ回数	感想
三国志 (古河英治)	以前	武将達の心情や、目下の次第 も、とてむかひやく面白く 書かれていた。
三国志演義 <罪育ヤ>	"	古河英治とは、少し違 ても味わえた。 多少違うところもあつた。
蒼き娘 <井上靖>	5/2 5/6	王の愛護 或る時代の 時代からの月が、とて面白 く書かれていた。 袖子の高等学校図書館
こころ	4/28 5/6	人間の挿身が、面白く書かれて いた。幾つかの作品は、後 で読むべきものがある。
竹取物語 少年少女読本	4/9 ~ 5/4	北条大膳 関子 藤原 の面白く、原典の面白 く、 少年少女読本
古今華開集 少年少女読本	6/1 ~ 6/3	まいたるうが、面白く、 面白く、面白く、面白く、 面白く、面白く、面白く、
志賀直哉 短編集	7/21 ~ 7/25	「人情の神様」など、懐かしい あんなに、面白く、面白く、 面白く、面白く、面白く、
古都	7/13 ~ 7/20	離れが、面白く、面白く、 面白く、面白く、面白く、 面白く、面白く、面白く、

この四年間の統計を見てみると、この期間の設定によつて、かねて本を読まない生徒も何か一冊は読もうとするようである。読まれる作品や作家も広がってきている。「読書案内」を参考にしてはいる生徒もかなりいるが、(5)

人間と人生を考えるために」「(9)自然の世界を知るために」「(10)詩歌と芸術の世界を知るために」の三つの領域の本はほとんど読まれていない。

(3) 校内読書感想文コンクールについて

本校では以前から春休み・冬休みには課題図書を持たせ、感想文を書かせていた。これも質の高い読書の機会を得させるためだったろう。感想文は担任が読み、クラス五編を選出し、校内コンクールをする仕組みであった。その他、講演会などがあるといつも感想文を書かせ、担任は五編選

んで提出というのがあって、担任も作文読みが大変でこっそり国語科に持ち込まれる。読書感想文は国語科が引き受けるべきかと考えたりしたが、これまでの流れを変えず、しかも担任の負担が軽くなるように、平成二年に次のような実施要領を作って承認を得、今日に至っている。

校内読書感想文コンクール実施要領

H4.4.11 読書指導係

第1回校内読書感想文コンクール

提出……………4月6日、全員、春休み課題図書 of 感想文を担任に提出する。

一次審査……担任（各学級優秀作品5編を選考する。）

二次審査……読書指導係（各学年6編の入賞作品を決定する。）

最優秀賞1編 優秀賞2編 佳作3編

表彰……………5月中旬に全校朝礼で表彰する。

第2回校内読書感想文コンクール

提出……………9月1日、全員、対象作品は自由とし、夏休み中に書いた感想文を担任に提出する。図書委員が名票に作品名等を記入して国語科に提出する。

一次審査……国語科（外部の各種コンクールの応募作を選考した後、校内コンクール用に各学級3編を選考する。）

二次審査……読書指導係（各学年6編の入賞作品を決定する。）

最優秀賞1編 優秀賞2編 佳作3編

表彰……………10月下旬に全校朝礼で表彰する。

第3回校内読書感想文コンクール

提出……………1月8日、1・2年全員及び3年進路決定者、1・2年は冬休み課題図書（3年は自由）の感想文を担任に提出する。

一次審査……副担任（各学級優秀作品5編を選考する。）

二次審査……読書指導係（各学年6編の入賞作品を決定する。）

最優秀賞1編 優秀賞2編 佳作3編

表彰……………1月下旬に全校朝礼で表彰する。

〈平成4年度第1回校内読書感想文コンクール〉

4月30日 一次審査終了 5月9日 二次審査終了 5月25日 表彰  
課題図書 1年『君達はどう生きるか』 2年『トニオ・クレエゲル』  
3年『さぶ』

これで副担任も一次審査をすることになり担任の負担が減って全職員が読書感想文コンクールに携わることになった。二次審査は係の四名で回し読みをして入賞作品を決定する。十八名の入賞者には校長が一人一人賞状を渡す。それらの作品の一部は学校文集『潮騒』（今年度で十二号）に掲載する。

課題図書は審査する職員にも配るので職員室でもその内容についての話題が出てくるようになったし、感想文が国語科に持ち込まれることもなくなった。

	昭和63年入学生	平成元年入学生
1年入学時	君たちはどう生きるか	高校生になったら (田代三良)
	(吉野源三郎)	
1年冬	太郎物語 (曾野綾子)	さぶ (山本周五郎)
2年春	論語物語 (下村湖人)	論語物語
2年春	文庫日記 (田辺聖子)	我が師わが友 (朝永振一郎)
3年春	小さき者へ生まれ出づる喜び (有島武郎)	秀吉と利休 (野上弥生子)
その他	黒い雨 (1年社会)	黒い雨 (1年社会)
		生きること学ぶこと (3年一斉読書)
	平成2年入学生	生きる3年入学生
1年入学時	蜘蛛の糸、杜子春 (芥川龍之介)	君たちはどう生きるか (吉野源三郎)
1年冬	君たちはどう生きるか	太郎物語 (曾野綾子)
2年春	銀の匙 (中 勤助)	トニオ・クレゲル (トゥマス、マン)
2年冬	狭き門 (ジイド)	天平の甕 (井上 銘)
3年春	さぶ (山本周五郎)	
その他	黒い雨 (1年社会) 生きること学ぶこと (一斉読書) 小僧の神様 (若西巖太) (一斉読書)	生きること学ぶこと (1年一斉読書) 文庫日記、黄河の水 (2年国語) 小僧の神様 (正義派) (2年一斉読書)
	平成4年入学生	平成5年度入学生
1年入学時	君たちはどう生きるか	
1年冬	筑川 (宮本 輝)	
2年春		
2年冬		
3年春		
その他	地獄変、盗賊 (1年国語) 小僧の神様 (小僧の神様)	

課題図書は次の表のようなものであるが、この選定は係と国語科で行い、まとめて購入させる。いつも、これで良かったかなという思いがつきまとうが、読んで良かったという感想文に胸をなでおろす。平成二年の入学生 (現三年生) などは例年より学力もやや不足し、落ち着きもなく、読書を好まない傾向があった。その生徒たちに『銀の匙』や『狭き門』は難しすぎる感もしたが、徐々に読みの深まりを見せ、『さぶ』の感想に至っては、これまであまり書けなかった生徒が良く書いていたのがうれしかった。

#### (4) 全校一斉読書会について

私は個人的には、せっかくの課題図書だから感想文だけでなく、それを使って読書会をしたいと思いつけていた。この生徒たちには集団思考によって読みを深めることや話し合うということが特に必要ではないかと感じていたからだ。しかし、休み明けは行事が多すぎて自分の学級だけの実施さえ計画できずにいた。そこで、平成二年度に秋の読書強化期間の行事として、全校一斉読書会をロングホームルームの時間に実施することを提案し、賛成を得られた。今年で三回目である。

(三、年) 校刊誌『今』の準備 (東岡州)

<p>送)</p> <p>「今」から、三年〇組の読者会と協働して、三月五日の「春の集い」で、読者会の方針を説明し、その方針に基づいて、手紙のある読者会に送りたいと書いています。</p>	<p>・ほとりの光のプリントと配布する</p>
<p>「ほとりの光」以外に何かありませんか？</p> <p>それでは、説明会まで印刷に持ったままにしておきます。</p> <p>何かありませんか？</p> <p>〇〇君の〇〇という本についてどう思いますか？</p> <p>三人の人物像 ・橋本 ・増次郎 ・小江</p> <p>橋本の心情 小江の心情</p>	<p>・ほか、なら説明会について話し合。(科長係り決めておく)</p> <p>全然意見がでない場合は約10分位フルで話し合。(意見交換をする)</p> <p>(手を取りた人にある)</p> <p>読者をよく祈、演いていこう。書いた後、速筆をしたら、</p> <p>なぜ橋本にしかれたか、</p>
<p>ふられた子として書いた読者(ラフレター)が、通に小江に送らせようと思いはないかどうして、思っていますか。(手紙に何かあらわれないか?)</p> <p>それでは、今までのこの作品について話し合ってきたとおりですが、最後に感想を発表して下さい。</p>	<p>小江にふられよう) 川島で、(裏通りとする) しかし……</p> <p>(約10分のうち5分間)</p> <p>(約5分経過)</p>
<p>〇〇先生、一言感想をお願いします。</p> <p>三日目の読者会でしたが、今日はどうでしたか。高橋先生は残り少ないですが、これを機会に読書の時間を増やしていくようにしてください。</p> <p>これで読者会を終ります。</p>	

<p>整理</p> <p>学級記録の整理 図書館だよりで紹介</p>	<p>準備</p> <p>アンケート集計 図書館だよりで紹介</p>	<p>対象箇所</p> <p>全学年共通 C・Wニコル 別紙(放送)と意見交換 図書館委員長の話 語句解説 読者委員用の要点メモ 図書館委員でリハール 図書館だよりで紹介</p>	<p>テキスト</p> <p>C・Wニコルの自然記</p>	<p>平成二年</p>
<p>同上</p>	<p>同上</p>	<p>学年ごとに選定 別紙(放送)と意見交換 図書館委員長の話 各学級に読書係を置く 各年毎メモ用紙 司会者マニュアル 図書館委員と司会者の会 図書館だよりで紹介</p>	<p>「生きていること」 字ふこと 広中平祐</p>	<p>平成三年</p>
<p>同上</p>	<p>同上</p>	<p>学年ごとに選定 家で読んできて話し合い 語句解説 読者委員長の話 読者メモ(語句、疑問点、感想) 司会者マニュアル(進め方、作品分析) 図書館委員学年別打ち合わせ会 図書館だよりで紹介</p>	<p>「小僧の神様」 志賀直哉</p>	<p>平成四年</p>



テキストの選定は、担任が指導しやすく、生徒も関心があり、話題を出しやすいいものという観点から取り上げ、学年会、職員会を経て決定する。第一回は環境問題、第二回は人生、学問論であったが、アンケートで小説の希望が多かったため、第三回の今年は小説で短編を取り上げた。対象箇所は次のとおりである。

第一回 (全学年共通 係と図書委員で選定)

第五章 森が死ぬとき

第二回 (学年別 生徒図書委員で選定)

1年 第二章(創造への旅) から「目標」と「仮説」、

「素心ということ」

2年 第一章(生きること学ぶこと) から「学ぶことと人間の知恵」

人間

第三章(チャレンジする精神) から「逆境と人間」

3年 第一章(生きること学ぶこと) から「根気」を

教えてくれた友」

第三章(チャレンジする精神) から「逆境と人間」

第三回 (学年別 係と国語科で選定)

1年 「小僧の神様」

2年 「正義派」

3年 「赤西蠟太」

時間は五十分である。第一回と第二回はその中で朗読をし、話し合う、第三回は家で読んで話し合うという形態であった。第一、二回は話し合いの時間は少ないが、全

員が参加できてスムーズに進んだが、第三回は、本を一週前に渡してあったのに読んでない生徒もいてクラスによって進行の差が大きかった。しかし、時間が十分あって、おそらく進むクラスも困っているクラスもそれなりに読書会というものの意義を認めたようである。アンケートではやはり次回も小説という希望が多かった。

準備は司書と図書委員とで意欲的に行ってくれた。第一回では、コピーが文庫本風に製作された。図書委員長の話や語句解説、記録用紙、司会者マニュアルなど生徒自身が工夫して作った。リハール等も熱心だった。特に第三回は作品分析、話し合いの流れ図作りに日曜返上だった。生徒たちにとって、こんな会の経験がほとんどないので準備する側も参加する側も快い緊張感があるようである。

整理として、アンケートを集計し、学級の記録をまとめて報告することになる。

三回のアンケートや記録を通じて、それぞれの作品、方法や取り組みはおおむね好評であった。どのクラスでも担任のまとめが良かったと生徒が言っていた。第一回では環境問題を深く考えるようになったとの感想が多く図書館のニコルの作品はよく借り出された。第二回では三年生に「この時期にこの本に出会えて良かった」という声を聞いた。受験のさし迫っている時期の行事で係として気の引ける面もあったが、受験の重さに押しつぶされそうな三年生にとつてふつと出会ったオアシスであったのかも知れない

とほつとしたことである。第三回では、もつと読書会の仕方が上手になりたいというのが圧倒的だった。作品の中にある葛藤を感じつつもうまくとらえることのできないものどかしさを言っているのである。

読書会としての良い姿にはほど遠いものであろうが、係、司書、担任、図書委員がうまく連携し、学校全体として盛り上げたと思う。今後、二時間読書会や、学級独自または自由参加の読書会など企画したいものである。共に考え、話し合うことに意欲的な雰囲気を作れたらいいと思う。

## おわりに

こうして、これまでの図書館活動を振り返って思うことは、「学校全体で取り組んでいる読書指導」であるということだ。まず、目の前の入試を突破するために、この生徒たちが広い世界に出てそれぞれの人生を生き抜くために「読書が大切だ」という認識がある。そして、職員にも生徒にも温かさを受け容れる心がある。七つ八つの校務分掌、教科指導担任業務に熱心に取り組んでいて実に忙しい。放課後の職員室は生徒がいつぱいで仕事はなかなかほかからない。それでも皆、何か計画を出すをやってみようと協力してくれる。私の方も図書館活動にじっくり時間をかけているわけではないが、司書の方や図書委員が積極的に動いてくれる。有り難いと思う。

図書館だよりの編集はもうほとんど生徒の手でできるようになった。委員会活動も活発になってきている。貸し出し冊数も六十三年度一人平均四・〇冊から平成三年度には五・九冊とわずかではあるが増えてきた。一日平均利用人員五五人から七一人に増えた。

冬休み明けには、一・二年だけは冬休み課題図書による読書会をしたらどうかという声もあがってきている。

以上、まとめてみたが、私自身が読書指導そのものについて勉強不足であることを痛切に感じさせられた。一人一人に何をどのように読ませるか、どのように必要とする情報を得させ、内面的に高めていくのか、国語の授業を統合したところで研究していきたい。

私の「読書指導のあり方を求めて」の歩みはこれから始まる。野地潤家先生の『個性読みの探究』にある「一人一人が、その人らしく読んでいくことができる」ように、そんな指導の方向をめざしたいと思うことである。

(鹿児島県立種子島高校教諭)

# 図書館だより

平成3年11月30日発行  
平成3年度 第7号  
藤子島高校図書委員会発行

## 《全校一斉読書会報告》

今月7日に、全校一斉読書会が開かれました。うまくまとまって議論できましたか？楽しく過ごせましたか？皆さんにご協力いただいたアンケートの結果ができましたので報告します。  
アンケートの結果 (355/403) 回答率85. 5%

- |  |   |
|--|---|
| 1: 読書会をどう思いますか。<br>良い (85%) 悪い (6%) 特になし (29%)                       | 4: 時間についてどう思いますか。<br>ちょうど良い (79%) 足りない (19%)<br>時間が余った (2%)                         |
| 2: 次回はどうしたらよいと思いますか。<br>全校で (22%) 学年ごと (49%)<br>学級ごと (28%) その他 (2%)  | 5: 作品についてどう思いましたか。<br>考えさせられる内容だった (64%)<br>部分だったので物足りなかった (22%)<br>おもしろくなかった (14%) |
| 3: 読書の形態をどう思いますか。<br>別紙を読きながら読む (80%)<br>黙読が良い (14%)<br>家で読んでくる (6%) | 6: 次回読書会したらどんな本がいいですか。<br>小説 (56%) 評論 (16%) 随筆 (6%)<br>ノンフィクション (20%) その他 (2%)      |

### 【先生方の疑問】

全体的にどのクラスも図書委員が中心となって進行もとてもスムーズいき、良かったと思います。  
話し合いはグループの方が積極的で評判が良かったです。  
1年生は初めてだったというところもあってか、意見交換が少し浅いようでした。  
時間配分は少なかつたと思います。今度は時間を長くするか、読むところを少なくするとかした方がいいと思います。  
これからも読書会が行われますが、何度もやっているとくに改善され、みんな進んで発表するようになるのではないのでしょうか。

### 【図書委員の感想】

先日行われた全校一斉読書会は各クラスそれぞれ意義のあるものであったようです。クラスによっては時間が足りなかった。内容が難しかったなど反省がありました。且つする読書と通って、自分の意見と他人の意見を比べたり。新しい考え方が生まれたり、人それぞれ感想があったと思います。  
この読書会で通った考えや、感想が生まれたらばとても素晴らしいことだと思います。読書会をみんなが楽しみにして待つよう、もつと活発な意見が出るように図書館の方でも次回の日数を立てようと思います。



### 【新着図書案内】

- 「タイム」が読める辞典 ○日本人ごっこ
- 輝く日本のNo.1 ('91) ○野ばら
- 虹の聲:

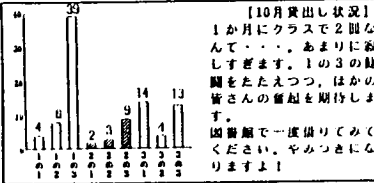
### 【岩波新書】

- ドナウ河紀行(189) ●芭蕉の門入(190)
  - 陽は考える(191) ●カプトガニの不思議(192)
- 【岩波ジュニア新書】  
●トレンディなんてぶつとばせ(197)

### 【Pick Up】

『日本人ごっこ』吉岡 忍(著)  
ノンフィクション。日本人になりましたタイの少女の物語。この少女は実在の人物であり、大学生警官、スポーツジムの入々に「日本大使の娘」といわり、私腹を肥やしていたが……。

※期末テスト終了後、たくさんの新着図書を紹介します。お楽しみに！！



### 【編集後記】

寒さも厳しくなって朝起きるのがつらくなってきました。3年の皆さんは大学入学の栄光に向かって最終チェックを行っている最中でしょうか。  
さて、今日のメインの読書会はいかがでしたか？クラスによっては、なかなか深い討論会があったようでした。これを機会に皆さんが読書に興味をもち、図書館を訪ねてくださったら光栄です。快進撃を体めを込めずためにもしっかり頑張ります。